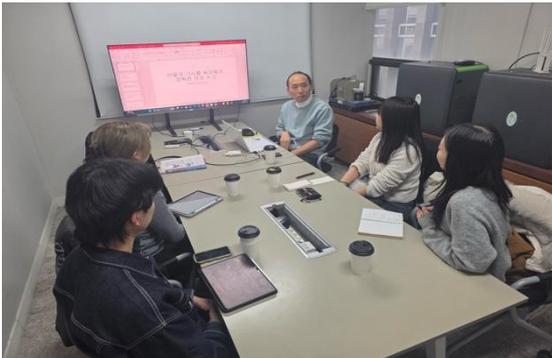


## 2025年度インターンシップ事後報告資料

名前	吉田梨花
記入日	2026年2月7日
1日目： 1月12日（月） 活動場所：オーマイニュース事務所	
活動内容： オーマイニュースの記者及び編集者に挨拶、市民記者の登録 記事作成、とKカルチャーに関する授業	
感想や反省点：準備不足で質問があまり出来なかった。 オーマイニュース本部長へ簡単な挨拶と質問タイムを行なった。気になることや興味のあることは何か聞かれた際に、あまりうまく質問できずに悔しかったし自分の準備不足を感じた。その後、オーマイニュースの編集記者による授業で基本的な記事作成ポイントを知り、どのような記事を書けばいいのかや正確な文章を書くために何を行えばいいのかに関する知識を得ることができた。韓国の芸能関連の記者による授業では、芸能関連の記者になりたくなかったという言葉から始まり、韓国芸能界とメディアとの関係を聞いた。オーマイニュースとはまた一味違うディスパッチの報道スタイルの情報も耳に入れながら、日本にも似ているメディアがあるため、その比較をしながら授業を受けることができた。尚、日本人にはまだ浸透していない映画が韓国で流行っていることを知り驚いた。  午後には代表との会食が開かれ、꿈틀이인생학교や事前活動やインターン初日の感想を共有した。インターン初日は慣れない環境下で沢山の方と交流する時間が韓国語での会話を聞き逃さないように、理解できるように気を張って落ち着かなかった。また、実際質疑応答がやってくると質問が出てこなかったり、事前に準備した質問が被るまたは似ている内容であることがあったため焦りに繋がった気もした。	
	
記者による記事作成に関する授業の様子	インターン頑張ろうの写真

2日目： 1月13日（火） 活動場所：韓国老人人力開発院

活動内容：

記事作成に関する授業、韓国老人人力開発院での企業説明や質疑応答

感想や反省点：

午前はインターン初日とはまた違う、記事作成に関する授業を受けた。記者本人が気をつけている観点や、市民記者の記事特徴を確認し、最終日の記事作成に向けて基礎的な準備ができた。お昼を済ませた後には、덕수궁に行き경복궁とはまた違う韓国の歴史的建物や衣装を見た。たまたまゲームキャラとコラボしていたらしく、通常時とは一味違う展示物を見れたと思う。

記者や企業との会話の中で、理解しやすく答えやすい質問、また自身の得たい答えを聞き出せる質問方法を考えることが大切と感じた。自分と先輩方の質問の仕方や内容を比較し、企業に携わる人の考え方を知ったり、企業の理念や制度を聞き出したりする質問を考える際の着眼点の違いを感じた。

午後に行われた한국노인인력개발원との面談では、韓国の超高齢化社会から考える働き口のあり方と企業と志願者をつなぐ大切さを感じた。また日韓が抱えている課題を知り、それらを解決させるために、どんな活動や意識が必要なのか考えさせられる良い時間だった。安全面や体力面で制限があっても、経験が豊富で知識があるからこそできる仕事もあるため、歳を重ねた方が楽しく、またやりがいのあるセカンドライフを送るためにこのような活動を行う企業があることが良いなと感じた。



左) 記者による記事作成に関する授業の様子

右) 韓国老人人力開発院と質疑応答や企業説明を受けている様子

3日目： 1月14日（水） 活動場所：野外活動

活動内容：

「冬の韓国」をテーマに写真撮影する実践授業

感想や反省点：

正直、体力的には元気だったけど気疲れを感じ始めた3日目だった。

3日目の活動は記事に載せる写真講座を受け「冬の韓国」をテーマに実際に写真を撮りにいく野外活動だった。活動前には記事で使用する写真や動画の撮り方や撮影機器を詳しく聞きながら、実際に記事で使われている写真を見てその特徴に触れることができた。私自身が釜山外大に留学しながら1学期だけ写真サークルで活動したが、その時とはまた違うカメラの使い方を学びつつ、説明されたポイントを抑えバランスの良い構成で撮影を行い、野外活動には積極的に活動できた。だが、スマホを使い記事に使える写真の撮り方を意識した活動で、普段自分が何気なく撮っている感覚とは大きく違い感覚を掴むのが難しかった。特に市場で撮った写真では同じ位置と高さで撮った写真でも、記者と学生たちで少しの違いがあって比較するのが楽しかった。活動中、韓国人にとってはな日常生活の一部であっても、外国人からしたらその一部が不思議だったり面白かったりするその感情が写真に現れると記者の方がおっしゃられて、確かに自分もそう感じるがあったため共感できたしカメラ撮影はそこが面白いと再実感した瞬間もあった。



野外活動中に撮った写真とそのフィードバック

4日目： 1月15日（木） 活動場所：国会議事堂

活動内容：

国会見学

国会議員と政治分野の記者に質疑応答

感想や反省点：

国会に出向き国会議員との質疑応答の時間を設けてもらったが、限られた短い時間だったため用意した質問をすることができず少し残念だった。しかし国会議員の方からインターン生へ、伝えたい言葉を事前に準備してくださり日韓関係や現代の若者に対する考えを聞くことができた。国会議員のパク・スヒョンさんの人柄や秘書の方々との交流、K-POP アイドルのような国会ペンライトが印象に残った。

国会や美術館などを見学できたことはとてもいい経験で、韓国の政治分野とその歴史に触れ有意義な時間にする事ができた。特に、ハングル化される前の国会模様のバッチが美術館に展示されており、実物の大きさに驚いた。個人的に、政治に対する日韓国民の考え方には両国間で年齢や性別を問わず大きな違いがあると考え、選挙の投票率の年齢割合にはその違いを見ることができる。その理由として、選挙に関する関心を得るためのメディア露出度や政治に対する難しいイメージ脱却が実現化されていると考え、現在若者の投票率が低い日本では韓国の政治スタイルを参考にすると若者の投票率変化に繋がると感じた。



左) 国会議員と学生での写真(右から2人目が手に持っているのが国会のペンライト)

中央) 美術館に展示されていた、ハングル化前の国会模様の実物

右) 国会見学の様子

5日目： 1月16日（金） 活動場所：オーマイニュース事務所

活動内容：

記事作成、修了式

感想や反省点：

記事内容や記事に載せてある写真の信憑性は、記事作成時における大切な要素の1つだと感じた。記事のファクトチェック方法を教わり、視覚的な写真による情報は真実性に問わず人々に印象を残しやすいため扱いに気をつけつつ、記事を読む側としてもその情報を鵜呑みにしないようにしたいと感じた。尚、水曜に行った写真撮影のフィードバックが届き、写真撮影の構成工夫を専門的な説明文で詳しく知れた。実際の記事作成時間では、本来自分が書こうとしていた記事内容では、2～3時間程度では作成しきれないと判断し、既存の記事を修正し提出することにした。そのため2個目の記事では即時性のある話題を取り上げ、日本人視点での記事を作成したいと考えている。

記事作成後には修了式と記念撮影が行われた。5日間という短い期間でも記者やニュース関係者に対するイメージが具体化され、多くの方と交流する中で、記者の人脈や記事自体の影響力を知れたと思う。それと同時に記事を書くためには、たくさんの交流や出来事があったからこそ書き出し続けることができるのかなと感じた。また会話をする中でも、記者の方々の知識の幅やその量が、メディア分野にとどまらず幅広い分野に携わっているんだなと感じる場面が多くあった。



修了式を終え写真撮影